

2024 年度（2025 年 3 月期） 決算説明会 質疑応答要約

日時： 2025 年 4 月 25 日（金） 16:30～18:00

質疑応答対応者：	執行役社長兼 COO	先崎 正文
	執行役常務兼 CFO	塩嶋 慶一郎
	ブランド・コミュニケーション本部長	紺野 篤志
	ブランド・コミュニケーション本部 主席広報官	久保 達哉

※内容を要約して掲載しています。

（ご参考）決算説明会 書き起こし記事：<https://finance.logmi.jp/articles/381465>

■ 関税影響**Q. 関税の影響額と 2025 年度業績予想への反映は？**

A. 最大 300 億円の影響を見込むが、2025 年度の業績見通しには織り込んでいない。関税対象外の在庫もあり、2025 年度の実際の PL 影響はより少なくなる。米国向けのリードタイムは 100 日程度で、現地のセーフティ在庫が 2-3 か月ほどある。合計 5-6 か月程度の製品が関税の対象になっていない。

Q. 関税への対応策は？

A. 段階的な価格転嫁、レンタル事業強化、原価低減、第一四半期における前倒し出荷など。

Q. 米国での生産拠点設立の可能性は？

A. 現時点で計画はないが、アタッチメントなど付加価値部品の現地対応は検討中。

Q. 関税が販売数量や価格に与える影響は？

A. 不確実性が高く、代理店・顧客とも様子見。ただし建設投資など各指標は堅調で、高い水準の工事量が続いている。価格転嫁を進めていく方針だが、需要や販売台数への影響は未確定。考えられる影響は、ダウンサイドでは買い控え、アップサイドでは大口レンタル会社の購入計画の前倒しや当社のレンタル事業の伸長などが考えられる。

■ 地域別・事業別見通し**Q. 北米事業の見通しは？**

A. 金利高止まりなどの影響で、2025 年度は油圧ショベル需要 3.5 万台と見込む。コロナ禍前の水準に戻ったと認識。北米代理店の在庫調整は順調に進んできた。

Q. 欧州事業の見通しは？

A. 欧州中央銀行（ECB）、英国イングランド銀行（BOE）の利下げや代理店在庫の正常化により、2025年度は増収を見込む。昨年度の後半から代理店在庫の調整は底打ち感が見えてきた。

Q. 中国事業の見通しは？

A. 石炭自国生産の増加による大型油圧ショベル需要が追い風。

Q. マイニング事業の見通しは？

A. 石炭・鉄鉱石の価格下落により需要は▲10～15%減を見込むが、既存機の稼働は堅調で部品・サービス事業が収益を下支え。受注は各地域で獲得できているが、需要は保守的に見ている。

Q. スペシャライズド・パーツ・サービス事業の成長要因は？

A. ブレーキサプライ社の通年寄与（前年度比約 180 億円の増収）、中南米でのミルライナー事業拡大などの収益性改善により、調整後営業利益率 13%を目指す。

■業績予想**Q. 2025 年度の営業利益以下の見通しは？**

A. 為替差損益や支払利息（借入金の減少）といった金融収支が改善する見込み。

Q. 各事業や地域における売上と需要見通しのギャップの理由は？

A. 北米ではレンタル事業拡大やブレーキサプライ社買収などが貢献。他地域でも自助努力による成長を織り込んでいる。

■株主構成**Q. 伊藤忠商事の出資増についての見解は？**

A. 伊藤忠商事とは密接な意思疎通をとっている。当社の自主的な経営や業績向上のサポートのための出資と受け止めている。丸紅との協業も南米での会社設立をはじめ継続しており、マイナスの影響は出ていない。

以上